

大阪教育大学附属特別支援学校における 学校安全に関する取り組み

ーセーフティプロモーションスクール(SPS)の理念に基づく実践と今後の展望ー

キーワード：特別支援学校、学校安全、セーフティプロモーションスクール

I. 背景と目的

安全な社会を実現することは、全ての人々が生きる上で最も基本的かつ不可欠なことであり、子どもたちが心身ともに健やかに育つことは、国や地域を問わず、時代を越えた全ての人々の願いである。学校安全とは、学校環境において児童生徒、教職員、及び学校を訪れる人々の身体的・感情的・精神的な健康と安全を確保するための対策とプロセスを指すことである。特に障害のある児童生徒が通う特別支援学校においては、一人ひとりのニーズに応じた安全対策が求められている。上述を踏まえ、今後、特別支援学校における組織的な安全管理の一層の充実を図り、安全で安心な学校環境を整備するとともに、障害のある児童生徒がいかなる状況下においても自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために、主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進していく必要がある。ゆえに、大阪教育大学附属特別支援学校として先進的な学校安全のモデルを発信していくことが本校の使命と言える。

II. セーフティプロモーションスクール(SPS)の理念に基づく実践

「組織」という土台を作り（指標1）、3年間程度の「方略」を設定し（指標2）、年間ごとに具体的な「計画」を立てる（指標3）。それを「実践」し（指標4）、活動の成果を「評価」する（指標5）。次年度の年間計画の策定にあたって実践課題の「改善」に取り組み（指標6）、学校安全推進に関わる学校関係者や地域関係者に「共有」し（指標7）、継続的に実践することである。（PDCA-Sサイクル）

【1】防火防災学習



【2】SPSサポーター活動



【3】セーフティバイシクル推進校活動



III. 結果

本校の学校安全の取り組みについて、今年度は大きく3つの実践を行った。防火防災学習では、体験型学習を通じて、災害時の危険認識や日常的な備え、自らの安全を確保する行動について学習することができた。アンケートでは、「保護者参加型学習を実施できたことで、災害時に必要な支援・対策を今回の取り組みにより身近で共有できたことが良かった」や、「体験的な学びを通して大人も子どもも楽しみながら学べる充実したプログラム内容になっていた」など、肯定的な意見をたくさんいただくことができた。SPSサポーター活動では、教職員主体の安全管理にとどまらず、生徒自身が主体となって校内の安全点検やピクトグラムの掲示をすることで、生徒の目線で校内の安全体制を整えることができた。セーフティバイシクル推進校の活動では、令和8年4月より道路交通法が改正されることから、大阪府平野警察署交通課、大阪府警察本部自転車対策室、大阪府教育庁といった関係各所と連携した交通安全教室を実施するなど、地域への広報啓発運動として道路交通法の改正についてのビラ配りを平野警察と協働して行った。

IV. 今後の展望

次年度から本校はSPS認証校としての3年目がスタートする。「SPS協定書」の有効期間は3年間であり、SPSの認証を受けた学校がSPSであり続けていくためには、3年ごとに日本SPS協議会による再認証を受け、学校安全推進の取り組みを着実に継続していくことが必要とされる。今後も附属特別支援学校として、個別のニーズに応じた安全対策や生徒が主体となって学校安全をつくる活動といった先進的な学校安全のモデルを学外へ発信することを使命として実践していく。その第一歩として、特別支援学校SPS認証校における学校安全の学校間連携について、各学校の「強み」を活かした実践の繋がりや共有化をめざして、特別支援学校における学校安全の実践共有システム(プラットフォームの検討)の構築をめざす。